

大震災・復興ニュース（第7報）

平成23年6月3日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

緊急環境調査について

水産技術総合センターでは、漁業・養殖業再開に向けて4月末から漁業環境調査を実施している。

具体的には、仙台湾の16地点、鮫ノ浦湾、女川湾、雄勝湾、追波湾の各1地点、志津川湾以北の9地点で、海水を採取し水質調査等を実施している。

現在、七ヶ浜から閑上沖の5地点の分析結果の速報値が出た。その結果、人の健康保護に関する環境基準として定められているカドミウム、ヒ素、PCB、水銀、農薬関係等の25項目と、生活環境の保全に関する環境基準として定められている大腸菌群、油分の合計27項目全てにおいて、異常な値は確認されなかった。

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

県管理漁港内及び漁場の啓開(けいかい)作業状況（担当：漁港漁場班，水産振興班）

県管理漁港の航路・泊地内の漁具や沈没した船舶・自動車等支障物の撤去作業は、

- ・荒浜漁港では5月9日から作業に着手し、80%程度完了しているが、台風2号による波浪の影響のため6月6日頃完了予定である。
- ・磯崎漁港は、6月初旬から再開する予定である。
- ・漁場の啓開作業は、5月23日から松島湾で着手し、潮位の関係から七ヶ浜沖と並行して2台の起重機船で作業を行っている。今後、現在手配しているバックホウ台船も入れると3台で作業することとなる。



松島湾内の漁場の啓開作業（左：養殖施設等の塊 右：船舶）

漁港の応急復旧状況（担当：漁港漁場班）

- ・塩釜漁港魚市場のエプロン補修は、5月31日に完了した。
- ・荒浜漁港の海岸堤防の応急工事については、阿武隈川河口から南側約900m区間を1次応急工事として大型土のうによる仮締切堤を4月27日から着工し、35%程度完了しており、6月末までには完了する予定である。
- ・宮城県沿岸域現地連絡調整会議事務局による仙台湾沿岸低平地の浸水被害を軽減するため関係機関が連携して緊急的な対策や今後の対応についての市町への説明会が24日山元町役場で、25日亘理町役場で行われた。

宮城県沿岸域現地連絡調整会議関係機関：国土交通省、農林水産省、宮城県、仙台市 災害派遣について（担当：漁港漁場班）

6月1日から兵庫県より2名の職員が災害復旧応援のため当部に派遣された。

派遣されたのは、松村俊宏主任主査と山崎績（イサオ）課長補佐。2人とも漁港災害担当となりますので、よろしくお願いします。

ノリ養殖業等協業化の検討について（担当：水産振興班）

管内の主にノリ養殖を行う支所において、各々協業化等に向けた検討が行われている。県では検討のたたき台となる「海苔養殖業協業化経営モデル」を作成し、説明を行っている。気軽に相談して欲しい。

<トピックス>

漁業再開に向けた動き

支所等	聞き取り内容
矢本	瓦礫撤去作業，ワカメの養殖施設準備
宮戸	種ガキ原盤作成，ワカメ養殖検討中，アワビ漁7月に再開予定
宮戸西部	漁場沈下でアサリ漁獲出来ず。アワビ・ウニの漁場調査予定
鳴瀬	瓦礫撤去作業，ワカメ養殖検討中
松島	瓦礫撤去は休止中，種ガキ採苗準備，刺し網漁業再開予定
七ヶ浜・浦戸東部	刺し網漁業は各浜毎に瓦礫や海況の状況を見て判断
浦戸	瓦礫撤去作業，種ガキ採苗準備
塩釜第一・塩釜市	瓦礫撤去作業
仙台・関上	瓦礫撤去作業，底曳き網漁業は9月再開予定
亘理	瓦礫撤去準備，底曳き網漁業等は当面見合わせ
山元	瓦礫撤去作業
宮城県小底	当面は瓦礫撤去，漁再開は9月予定

塩釜漁港で釣り船が一斉再開

6月1日に宮城県釣り船業協同組合他4団体の主催で、塩竈まがき岸壁において釣り船再開イベントが開催された。

参加した25隻は、午前5時30分に大漁旗を掲げて一斉に出港した。船によっては、メバルが一船当たり70～138尾程釣れたようである。

また、帰港後にチャリティオークション等が行われた。